

# つなプロ避難所アセスメント 第4週(4月18日～4月24日)に関する 分析速報

2011年4月25日



被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

## つなプロ避難所アセスメントについて

### ■被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)とは

仙台・東京・関西を中心とした全国各地のNPOネットワークとして3月14日に発足した「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)は、これまでのべ400人のボランティアを宮城県に派遣し、600か所の避難所を、3月28日から3週に渡って巡回訪問。避難所の実態把握のためのアセスメントを実施している。アセスメントによって判明したニーズや課題を、地域内での支援の取り組みや、介護、医療、障害者・外国人・難病患者支援など専門性を持つNPOとマッチングすることで解決を進めている。600か所の避難所データは、富士通より無償提供されたクラウドシステムによって、提携NPO間で共有されている。

### ■データ注意点

・本分析は、第4週(4/18~4/24)分における集計。但し一部分はデータ数確保のため、第1~3週分も含めた分析となっている。各項目ごとに、アセスメントできた避難所に限定して分析は行われている

### ■幹事団体

(特)せんだい・みやぎNPOセンター、(般社)ダイバーシティ研究所(DECO)、  
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]、スペシャルサポートネット(SSN)関西、(特)ETIC.、日本財団

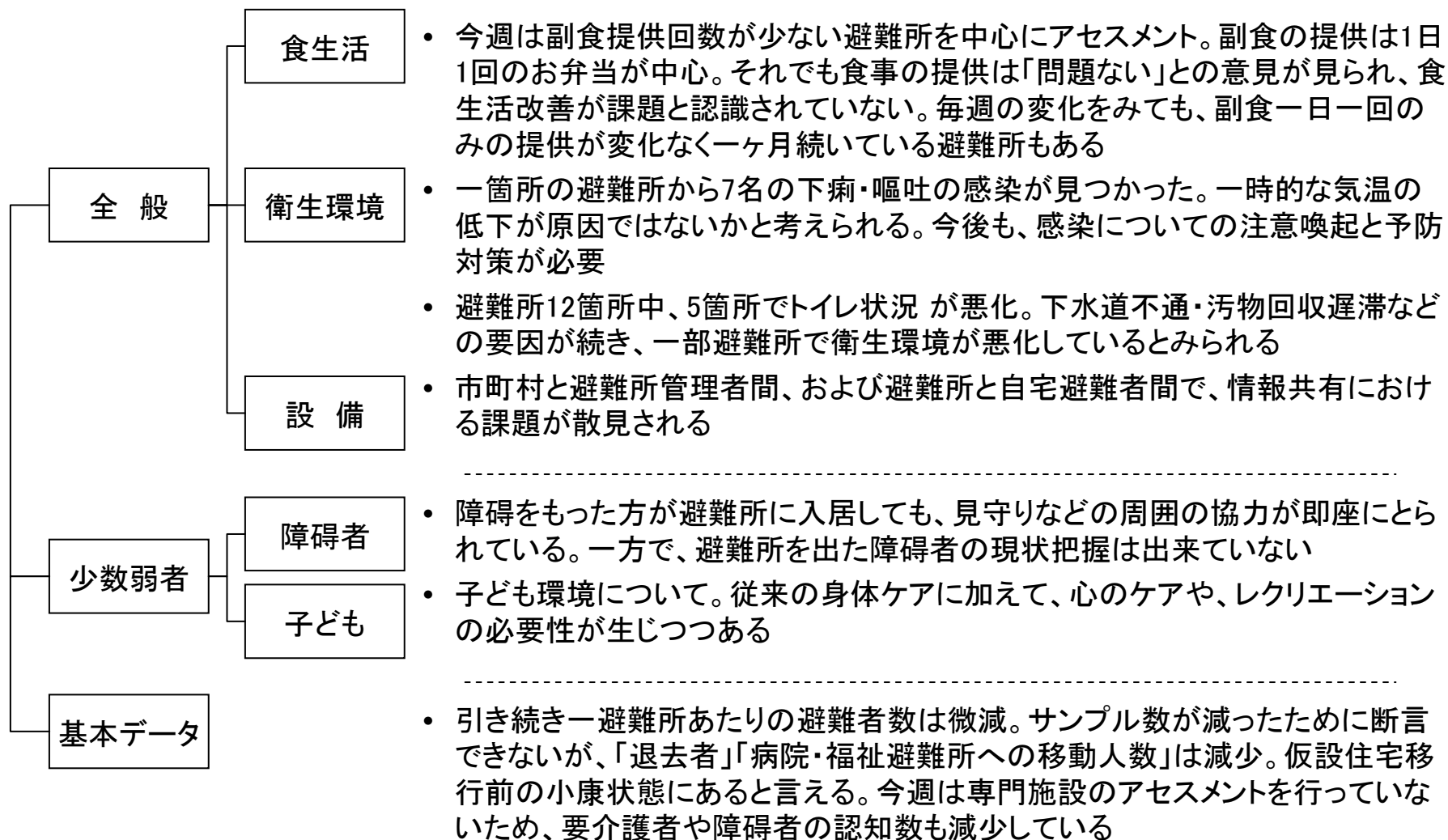
### ■実施スケジュール

- ・3月28日(月)~4月17日(日):毎週80名程度のボランティアによる、避難所の巡回訪問とアセスメント、  
現地および東京などの支援団体・機関と随時マッチング(3週間)
  - ・4月18日(月)~5月1日(日):毎週60名程度のボランティアによる巡回訪問・マッチングの継続と、  
10程度の避難所での継続的な支援(自宅避難者の訪問を含む)を準備
- ※福島・岩手での同様の取り組みも、連携先候補との協議中。

### ■詳細/ウェブサイト <http://blog.canpan.info/tsunapro/>

### ■分析実施 RCF災害支援チーム

# 要約 ～変化は少ないが、隠れた課題があらわに



# 食生活 ～「食べられるだけでありがたい」意識により変わらぬ環境



- 今週は副食提供回数が少ない避難所を中心にアセスメント。副食の提供は1日1回のお弁当が中心。それでも食事の提供は「問題ない」との意見が見られ、食生活改善が課題と認識されていない。毎週の変化をみても、副食一日一回のみの提供が変化なく一ヶ月続いている避難所もある

避難所別の1日あたり副食提供回数推移 (N=13。数字は副食回数。“-”は未調査)

コメント

避難所	4/4-4/10	4/11-4/17	4/18-4/24
避難所A	1	1	1
避難所B	1	1	1
避難所C	1	1	1
避難所D	1	1	1
避難所E	-	1	1
避難所F	-	1	1
避難所G	-	1	1
避難所H	-	1	1
避難所I	1	-	1
避難所J	1	-	1
避難所K	1	-	1
避難所L	2	-	1
避難所M	0	0	1

『はじめから(一日の食事回数は)2食と決めている。調理場は使用可能だが人手と時間の問題で炊事は行っていない』

『管理者の話によると、食品は足りている』

資料: つなプロアセスメント調査

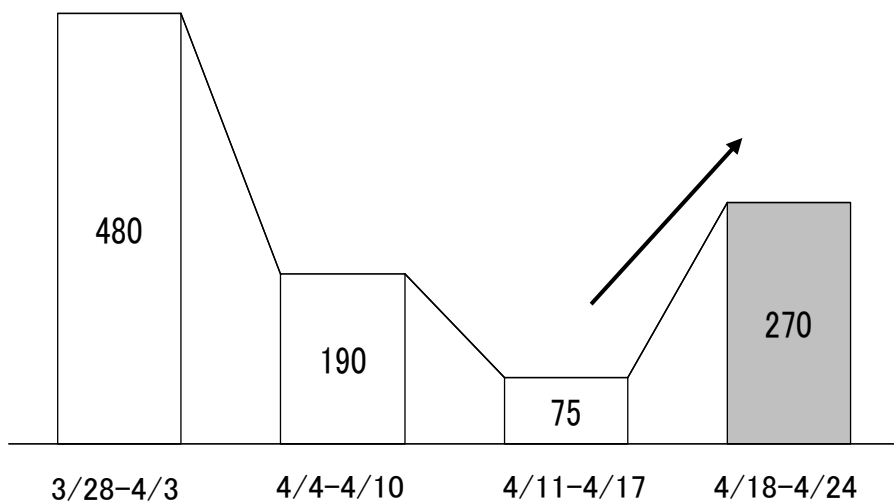
注) 4/18-24調査先のうち、4/18以前の調査で訪問しており、食事の内容が継続して比較可能な12件を対象に集計。

調査日前1日の食事内容から集計。おかずのうち、野菜、肉、魚などを調理したものを副食として集計。スープ、味噌汁、インスタント食品、レトルト食品のみでは副食としてカウントせず。

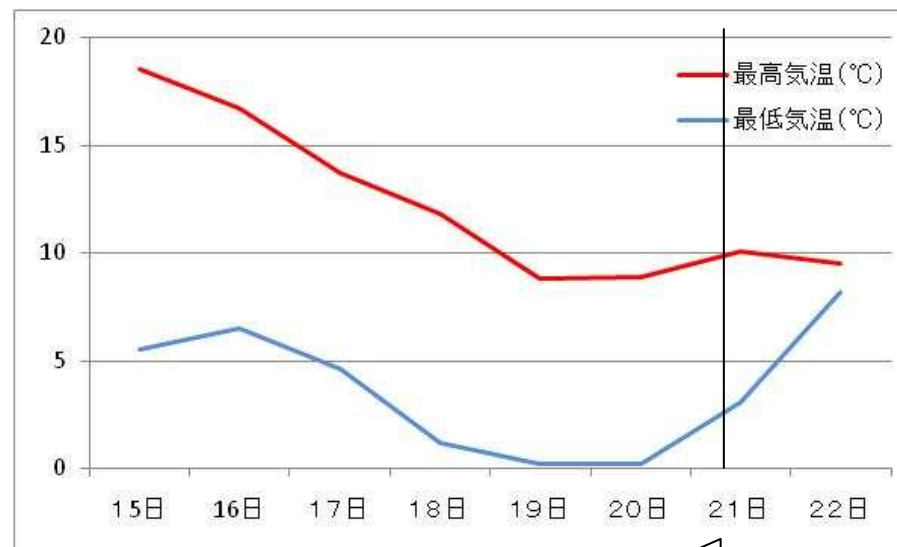
# 感染症 ～下痢・嘔吐感染の発見

一箇所の避難所から7名の下痢・嘔吐の感染が見つかった。一時的な気温の低下が原因ではないかと考えられる。今後も、感染についての注意喚起と予防対策が必要 (※n=11の推計)

宮城県避難所における感染症患者数推移推計(\*)



気候の変化(\*\*)



4月21日に感染症患者が増加。直前の気温低下による冷えが原因とみられる

\* つなプロ調査より1避難所あたりの平均感染症患者数を算出した後、各週末時点の避難所数に掛けて試算。4/18-24では、11避難所の調査において、1件7名の感染者を発見。平均0.64感染者数/避難所 × 417避難所で、計270人程度の患者がいると推計

\*\* 石巻市における4/15~4/20の最高気温・最低気温推移  
資料: つなプロアセスメント調査(3月28日~4月17日、4月18日~4月24日)

# トイレ ～トイレ衛生環境は悪化

- 避難所12箇所中、5箇所でするトイレ状況が悪化。下水道不通・汚物回収遅滞などの要因が続き、一部避難所で衛生環境が悪化しているとみられる

トイレ状況の変化 N=12(\*)

コメント

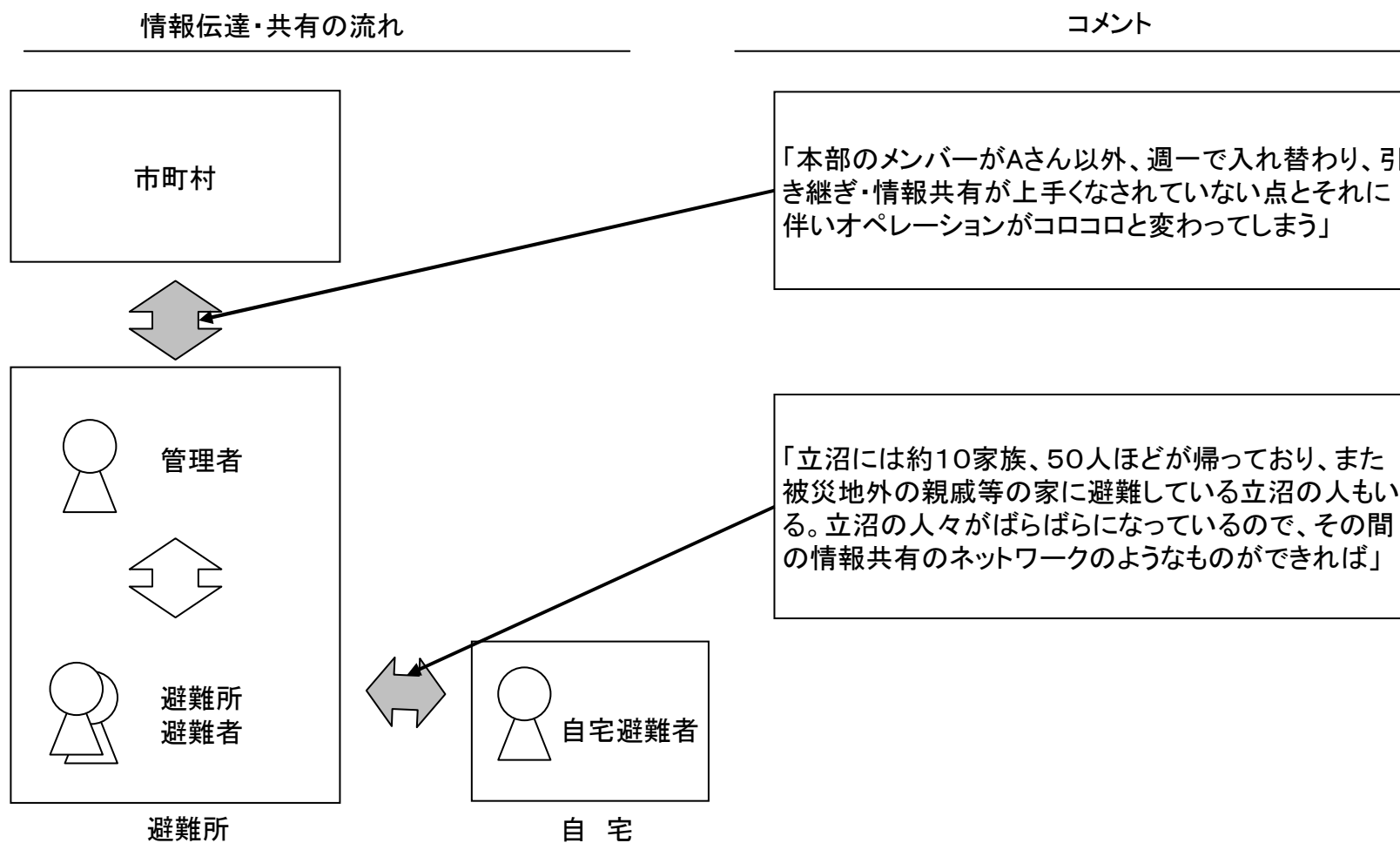
避難所	3/28- 4/17	4/18- 4/24	コメント
避難所A	○	○	高い衛生状態(4/15)→当番制で清掃(4/20)
避難所B	○	○	各家庭でトイレがあるほかは、当該センターのトイレ(汲み取り)を使用している(4/6) →自分たちで穴を掘り、屋根と壁はベニヤ板をはった、自作トイレ。使用済みのトイレトーパー等は燃やして処分しているとの事(4/22)
避難所C	○	×	
避難所D	○	×	清潔、良好(4/3) →施設地下の23tの貯水槽の水は1日半で無くなってしまった。農家の人に頼んで井戸水をタンクに汲んでもらい、バケツを設置して流すという形をとっていた。土を掘って周りにテントを張るタイプの手作りの仮設トイレを設置したが、利用者は少なかった。仮設トイレは沿岸部の方が必要度が高いと判断したため設置せず。ポータブルトイレも設置したが、非常ににおいが気になった(4/20)
避難所E	○	×	
避難所F	○	×	
避難所G	○	×	プールの水を使用。紙は流さない(4/5) →水は流れるが、紙はまだ流せない(4/23)
避難所H	×	×	
避難所I	×	×	
避難所J	×	×	
避難所K	×	×	
避難所L	×	×	

\*3/28～4/24調査した避難所の内、2回以上に亘って比較調査し、定性コメントを得られた避難所12箇所を対象とした。

資料: つなプロアセスメント調査(3月28日～4月17日、4月18日～4月24日)

# 情報の伝達・共有 ～情報伝達・共有上の問題継続

- 市町村と避難所管理者間、および避難所と自宅避難者間で、情報伝達・共有における課題が散見される



# 障害者 ～避難所では対応進むも、自宅避難者に不安残る

- 障害をもった方が避難所に入居しても、見守りなどの周囲の協力が即座にとられている。一方で、避難所を出た障害者の現状把握は出来ていない

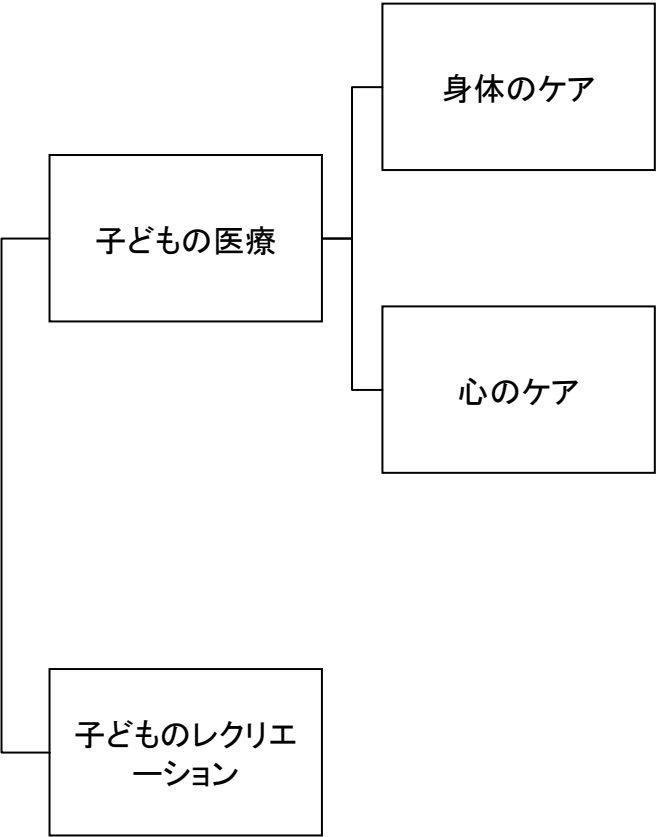
(再掲)避難所の障害者数試算 (宮城県, 人)	比率	コメント										
<table border="1"> <tr> <td>肢体不自由</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>知的・精神障害</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>視覚障害</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>自閉症・発達障害</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>聴覚障害</td> <td>31</td> </tr> </table>	肢体不自由	270	知的・精神障害	195	視覚障害	78	自閉症・発達障害	41	聴覚障害	31	0.6%	<p>4月12日: 発達障害または知的障害の2名が夜中に騒ぎ、周囲にストレスを与えている様子との報告。</p> <p>4月21日: 統合失調症の男性は、ボランティアセンターからの派遣スタッフにより見守りができており、現在、特別なニーズはなしとの報告。</p>
肢体不自由	270											
知的・精神障害	195											
視覚障害	78											
自閉症・発達障害	41											
聴覚障害	31											
	0.4%											
	0.2%	<p>4月14日: 視覚障害の70歳前後の女性が入所とのこと。</p> <p>4月21日: 入所した弱視の70代女性は、周りの人の協力もあって特に日常生活に困難は感じていないとの報告。</p>										
	0.1%											
	0.1%	<p>■その他コメント</p> <p>「精神疾患を持つ家族が避難所を追い出された」</p> <p>「自閉症の子どもを持つ家族は自宅へ帰った」</p> <p>「統合失調症の男性がコミュニティから浮いてしまっている」</p>										
障害者避難者総数	620		1.4%									
避難者総数	45,078	100%										

\* 避難者総数(4月17時点、宮城県発表)に対して、比率(n数各100程度)をかけ合わせることで、障害分類別の対象人数を試算  
 資料: つなプロアセスメント調査(4月11日～17日、18日～24日)



# 子ども ～心のケアとレクリエーションの必要性

子ども環境について。従来の身体ケアに加えて、心のケアや、レクリエーションの必要性が生じつつある

課題	コメント
 <pre> graph LR     A[子どもの医療] --- B[身体のケア]     A --- C[心のケア]     D[子どものレクリエーション] --- C             </pre>	<p>「生後3カ月の男の子。咳や鼻水、目やになどがある。夜に咳がひどく、夜泣きをする。保健師の訪問は一回きり。小児科医の訪問もない。病院まで行く手段がなく、困っている。専門医(小児科医)の定期的な往診、または病院まで定期的に行くことができる手段(ドライバーや車など)を必要としている」</p>
<p>「小中学生はバスの送迎があるため学校に通えているが、高校生2名に関してはどうなるかがわからないので少し不安とのこと(高校は5/9から開始)。子どもは余震が起きると恐怖感を表したり、『もう前の学校には戻りたくない』と言うなど、心のケアが必要だと感じる」</p>	<p>「地震の影響か、小学生2人(兄弟)の子供の落ち着きがなくなった。心のケア必要か」</p>
<p>「生後3か月、3歳、6歳の子どもがいる。3か月の子どもの世話で手が離せないが、3歳、6歳の子どもは遊び盛り。一時保育、保育所、子どものレクリエーション等を希望する」</p>	<p>「お年寄りや子供のレクリエーションをするような団体が来てほしい」</p>

## (参考)基本データ ～仮設住宅移行前の小康状態

- 引き続き一避難所あたりの避難者数は微減。サンプル数が減ったために断言できないが、「退去者」「病院・福祉避難所への移動人数」は減少。仮設住宅移行前の小康状態にあると言える。今週は専門施設のアセスメントを行っていないため、要介護者や障害者の認知数も減少している

		回答 避難所 数*	該当人数 小計*	一避難所あたり 人数(4/23調査)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/16調査)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/9調査)	【参考】 一避難所あたり 人数(4/2調 査)
基本数	避難者総数	59	5694	96.5	99.4	102.7	168.4
	過去一週間の入居者	10	15	1.5	45.7	41.4	102.7
	避難所外就寝者数	13	353	27.2	53.5	36.3	84.9
	退去者数	11	73	6.6	58.9	152.8	365.3
	自宅に戻った人数	12	486	40.5	29.3	27.9	128.1
	被災地外への転居数	4	0	0	4.1	14.4	8.6
	病院・福祉避難所への移動人数	6	1	0.2	0.3	0.8	2.6
年齢別	新生児 0歳児	27	8	0.3	0.3	0.2	0.6
	幼児 1～未就学	31	51	1.6	1.3	1.4	2.6
	子供 小学生	30	118	3.9	5.2	3.8	7.4
	12～18歳	23	36	1.6	3.4	3.0	5.4
	高齢者 65歳以上	29	719	24.8	41.6	30.6	56.6
配慮者	妊婦	31	2	0.1	0.1	0.0	0.1
	要介護者	30	9	0.3	2.1	2.5	2.2
	アレルギー患者	17	4	0.2	0.2	0.2	0.1
	その他要配慮数	17	10	0.6	0.3	0.5	0.1
	外国人	22	1	0.0	0.2	0.1	0.7
	対応必要な信仰	12	0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害	障害者総数	26	3	0.1	1.2	1.0	2.5
	肢体不自由	25	3	0.1	0.6	1.0	1.7
	聴覚障害	24	0	0	0.1	0.1	1.1
	視覚障害	25	2	0.1	0.2	0.1	0.2
	知的精神障害	27	5	0.2	0.4	0.6	1.4
	自閉症・発達障害	23	0	0	0.1	0.1	0.3

・避難所により把握できたデータは異なる。数字は把握できた避難所数と、その避難所における該当小計、この二つの数字から、一避難所あたりの該当数を試算  
資料: つなプロアセスメント調査(4月18日～24日)